

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

ネトラレン

Vol.6



LOSER

指揮官♥
今回の報告書です
ご確認ください♥

【ネトラーレーン Vol.6】



♥ゲッツ・フォン
・ベルリヒンゲン♥

鉄血貴族令嬢
特濃フェロモンチンポに陥落♥



♥クラスヌィイ
・カフカース♥

ご主人様との
ラブラブ精神訓練♥



♥キアサージ
&
カンザス♥

巨根主義♥
ヤリマン化改造計画



♥シェルブール♥

指揮官たちとの
結果見え見えチン比べ♥



♥ハウデン・リーウ♥

上官様のご子息と
ヒミツの遊び♥



♥フランクリン♥

フランクリンと
元指揮官くんの
寝取られマゾ日誌



♥アウグスト
・フォン・
パーセヴァル♥

堕ちた魔女との
寝取られマゾ奴隷契約♥



♥ノースカロライナ
&
ワシントン♥

寝取られマゾ煽り
ノーハンド射精♥



♥フリッツ・ルメイ♥

指揮官用VIPルームで
立場わからせ浮気エッチ♥



♥ダンカン♥

裏切者の卑劣な罠
エージェント堕ちる♥

「どなたですの！あなたッ!?」
「このお部屋は、私と
指揮官閣下の愛の巣…」

「あなたのような下賤な者が
踏み入れてよい場ではありません」

「もうすぐ指揮官閣下が
いらっしゃるのというのに…」

「今すぐ立ち去りなさい！
消し炭になりたくて？」

「おお、怖い怖い…
流石は鉄血の貴族令嬢

残念だが、ここに
愛しの指揮官君が来ることはない

それに…

コレを前にしても
同じことが言えるかな

ズッ

「なッ!?」
いきなりなんて
汚らしいものを…!!

「……ッ!?
んう…♡この香り…
頭が…ぼーっとして…♡」

「どうしてですの…?
こんなに汚らわしい汚物なのに…
なのに…目が離せない…♡」

ほく

この肉棒の
特製フェロモンは
お気に召したようだね♡

どんなに気高い艦でも
メス便器艦に堕とせる代物さ♡

はー♡

はー♡

はー♡

「抗わないと…♡
この身は指揮官閣下の…♡」

「こんな立派な…おチンポ様なんかにい…♡」

ひとたび、このチンポを前にしてしまえば
どんなに敵意があっても、身を捧げなくなるのさ♡
そして精液を、口で、マンコで、受け入れる度に
私が愛おしくてたまらなくなるのさ♡

これから、じっくりと…
私のモノに染め上げてあげようね…♡

「ごきげんよう…♡
元♡指揮官閣下♡」

「全てを失ってしまったというのに
私の姿を見るなりそんなに情けなく
粗チンを勃起させてるなんて…!」

「本当にどうしようもない
寝取られ上手なマゾ男ですわ♡」

「私はあなたのことなんて
もうどうでもよいのですけれど…♡」

「ご主人様がお楽しみのスパイスとして
使ってくださいることに感謝なさい♡」

「その情けないゴミチンポザーメンが、
私の身体に触れるなんて…
思うだけで寒気がしますの」

「このガラスの向こうから、猿みたいに
シコリ散らすのがお似合いですわ♡」

「私はこちら側で、ご主人様の気が済むまで
おチンポ様にハメさせて頂きますから♡」





「オオオオオオオウホオ♥♥♥
イグイグイグウ♥♥♥」

「極太おチンポおッ
最ッ高ですわあ♥♥♥」

オホッ

オホッ

グッ

グッ

グッ

♥

♥

♥

「んぶう♥もつと私を深く
愛してくださいまし♥」

「あんな劣等雑魚雄のおチンポと
愛し合ってしまった、あの忌まわしき過去…
強者のザーメンで真ッ白に塗りつぶしてください♥
全部忘れたいです♥♥」

「おっほお♥またイクッ♥
ガチアクメくるう♥真ッ白になるう♥
ご主人様ああん♥んほおお♥♥」

グッ

グッ

キアサージ

あの二隻の
改造計画の進捗は
どうなっている？

順調に進んでおります

肉体、精神ともに
改造率60%を超えました

あゝ

ぷるるん...

ぷるるん...

びく...

ズボズボズボ

ふあ

グググググ

びく...

ぐん

びく...

カンザス

評価完了!...
雌を支配するURチンポ♥

早く挿入してほしい♥

ククク...
いい具合に仕上がって
いるじゃないか

たっぷりと主人の味を
教え込んでやる♥

んぶう♥
早くチンポエネルギー
補給させてほしい♥

高級全自動オナホが
手に入ったわ♥





「あら指揮官♥どうしてここの森の入口に？
私はこの子に自然を感じてもらおうと思って」

「一緒に来たいの？ダメよ指揮官♥
これから上官様と会議でしよう…？」

「上官様のご子息の面倒は私がしっかり
見てるから安心してちょうだい♥」

そーだそーだっ！オッサン！
サボってないでちゃんとしごとしろよなーっ！
でないとパパに言いつけちゃうぞ！

「ほら♥私は大丈夫だから♥
早く行ってらっしゃいっ♥」

ハウデン・リーウ

むいっ♥





ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ハー

ハー

ズン

ズン

やっべ♡
やっべえ♡♡
ふわとろマンコ
さいこー♡

オッ♡
オッ♡
オッ♡

オッ♡

「おおおん♡
そこパンパンツ♡
しちゃだめえ♡♡」

ズン

「弱点速攻で

見抜かれちゃったあん♡
子供なのにセックス
うますぎよお♡」

ズン

どーお？
ハウデンお姉ちゃん♡
ぼくのちんちんすごいでしょ♡

「うん♡とーっても♡
気持ちよかったわ♡」

ほんとお？
あのオッサンより？

「本当よ♡指揮官なんかの
子供チンポなんかよりい♡
ぼく君のおチンポのほうが
ずうーっとかっこよくて大人よ♡」

きめたっ！ハウデンお姉ちゃんは
ぼくのものにするっ！
きょうからおうちにもってく！！

「ふふふ♡うれしい♡それじゃあ
お父さんをお願いしないかね…♡」

ズン

ズン

「フフ♥相変わらず粗末で醜い肉棒ね♥
こんな雑魚オスを使い魔として契約していた
なんて思うと鳥肌が立つわ：♥」

「喜ばなさい♥お前と新しい契約を結んであげる♥
【寝取られマゾ奴隷】：の契約よ♥」

「魔女である私と、それを支配する
御主人様との本気交尾を見ながら
情けなくマゾ射精したいのでしょう？」

「マゾ射精のために全てを捧げる：♥
無能チンポのお前に、お似合いの契約だと思うわ♥」

「契約はお前が寝取られマゾ射精をした瞬間に成立するわ♥」

「当然オナニーの手伝いなんてしてあげないわ♥
汚いもの♥そこで勝手にチンポしていいなさい♥」



「おおお…っ♡
奥までくるう♡」

「ふふっ♡ホントにシコってる♡
もう救いようがないマゾね♡」

ズン♡

ビクン

ビクン

ビクン

オオオオ♡
オオオオ♡
オオオオ♡

ズン♡
ズン♡

「お♡おっ♡あん♡フーッ♡

御主人様のチンポっ♡凄いつ♡凄いわ♡♡」

「魔女と使い魔との契約を一撃で打ち砕いた
強者チンポお♡もうコレしかありえないわ♡」

「もっとハメて♡突いて♡魔女の秘所を
御主人様のザーメンで染め上げて♡」

ビクッ

毎度、反抗的な態度で
チンポイラつかせやがって♡
どうせすぐ自分から腰振って
イキまくるくせによお♡

「シボッ♡シン♡じゅるう…♡
そんなことは…ない♡」
「貴様のちんぽなどお…ん♡
取るに足らんう…♡」

ルメイちゃん♡来ちゃったよ♡

「…ッ!? 貴様…母港には来るなど言っただろう!」

あれれ? そんな態度でいいのかなあ?
大事な指揮官君のこと、どうでもよくなっちゃった?

「うぐ…何が目的…でしょうか?」

やることは二つでしょ♡
そのVIPルームってどこでいっか♡

「そこは指揮官の為に用意した…」

んなことどうでもいいから♡
さっさとしゃぶれよ♡

ちゅる〜♡

パッパッ

パッパッ

グッ

ビュン

必死に腰振っちゃって
もう完全に堕ち切ってんじゃん♡

「フーッ♡フーッ♡…ンオ♡
お、堕ちてないい…♡これはあ…♡
指揮官を護るためだからあ…♡」

「こんな凶悪チンポおっ♡どうってことはない♡
いくら指揮官が劣等雑魚チンポだからって♡
お前のようなクズにい♡堕ちるわけないいッ♡♡」

ふーん…それじゃあ次からは、別の雌で遊ぼっかなー♡

パッパッ

オッオッ

ズン

ズン

ビュン

あへあへ
あへあへ

「はへ♡おお♡ま、待て♡
堕ちてる♡堕ちてるからあ♡
お前のイケメンチンポにメロメロだから!!」

「我を…我を使ってくれ♡
無能な雑魚チンポ指揮官なんてえ♡
もうどうなってもいいから♡♡」

「あ…指揮官…何か用？
私は今、ご主人様と精神訓練の
真っ最中なんだけど♡」

「う…♡ふうー♡ふうー♡はあ♡はあ♡
おちんぼ様の香りと熱を感じる♡」

「…？ どんな訓練かって？
どうして指揮官に教えないといけないの？」

「早く精神訓練の続きをしたいから…出ていってもらえる…？」



「おおん♥あ♥あッ♥うおお♥♥」

「しゅごいい♥指揮官じゃあ♥んんッ♥
突けなかった弱点狙い撃ちい♥」

「もうご主人様への気持ちで
頭いっぱいだよ♥」

ビクッ
ビクッ

「もつと私を罰って♥
罵って♥支配してえ♥」

「ゴミ指揮官のヘタクソ調教された身体を
ご主人様のつよつよ調教で上書きしてえ♥」

ズンッ
ズンッ

ズンッ

はく

「えへへ…♥最高お♥
もうご主人様無じじゃあ
生きていけないよお♥」
「これからもお♥私でえ♥
沢山遊んでくださいい♥
えへへ♥♥♥」

ビクッ



シェルブール

「……つまんな」

「指揮官として無能なのは構わないけど
せめて私を退屈させないでほしいわ…」

「まったく、こんなゴミ雄に夢中に
なっていたなんて…どうかしてたわ」

「さて♥こっちの新しい指揮官は
中々いいモノ持つてるみたいだけど♥
私を楽しませてくれるのかしらあ♪」

「クッッ」

「クッッ」

「クッッ」

「クッッ」

「クッッ」

「クッッ」

「クッッ」

「クッッ」

「クッッ」

「ゴッゴッ」

「ゴッゴッ」

「ゴッゴッ」

「ゴッゴッ」

「ゴッゴッ」

「ゴッゴッ」

「ああああん♥すっごい♥
お♥おう♥んおお♥
屈じちゃう♥このおチンポに
支配されちゃう♥♥」

「生意気言ってごめんなさあい♥
もうあなたのチンポにいい♥
ドハマリしちゃったわ♥」

「退屈な粗チンマゾ男なんてどうなってもいい♥
私をあなた様のケツコン艦にしてえ♥」

ズン
ズン

IP
ズン

ズン

ズン

奥
ズン
ズン
ズン

ズン

ズン

ズン

ああ
ズン
ズン
ズン



「フフ♥おまたせ♥
いい子にしてたかしら♥
元指揮官くん♥」

「あなたの期待通り、さっきまで
ご主人様とパコってたわ♥
本当は中断なんてしたくなかったのだけど♥
ご主人様の命令だから仕方なく…ね♥」

「フランクリンと元指揮官くんの寝取られマゾ日誌」…♥
「今日で完成しちゃうわね♥」

「完成したらどうなるのかって？
もちろんあなたに会うことは無くなるわ♥」

「当たり前でしょう？寝取られマゾを虐めるの飽きちゃったし♥
そもそもご主人様の命令で相手してあげてただけなのよ♥」

「それじゃあ♥情けなくお漏らしして♥お別れしましょう♥」



「ほくら指揮官♥頑張って
びゅっびゅっびゅっ…♥」

「はあい♥よくできました♥」

「指揮官をマゾ射精させた数だけ
ご主人様に生ハメ交尾して
いただけるんですから」
あと10回は出してもらわないと♥」

「何にもできない役立たずでも
マゾ射精だけはできるんですから♥
頑張っ…っはい♥」
寝取られマゾ射精しましょうね♥」

おほっ

「…いくら寝取られマゾだからって
触ってないのにイクって…」

「いや、そのゴミみたいなチンコ
触りたくねえからいいけどさ…」

「こんなのに一時でも惚れて
ケツコンしてたと思うと
アタシのプライドに
傷がつくっていうか…」

「まあいいや、さっさと
出せるだけ出しちまえよ♥
こっちは早くご主人様のチンポほしくて
マンコムラついてんだからさ♥」



ワシントン

ノースカロライナ

「へっ♪捕まえたぜえスパイさん♡
抵抗しても無駄だぜ♪」

「……ッ」
「こちらの情報が漏れていた？
しかしこの作戦は、上層部と指揮官しか
知らない極秘任務のはず…
まさか上層部に裏切者が？」

「こいつ最新鋭の開発艦じゃあねえか♪
尋問して情報吐かせたあとは、
俺たちの肉便器艦に、再開発♡してやるよ♡」

たゆん

ばるん

「まずはこのデカパイから翫ってやるかな♡
（特殊な装置の影響か身体がうまく動きません…
ですが、この男たち…隙だらけで明らかに素人ですね）
登ましたその顔を、すぐにドスケベな雌顔に墮としてやるよ♡
「どうぞ、勝手に…」
（隙を見て脱出し、指揮官に報告しなくては…）」

ふんっ

たゆん



「も、もうやめへ…♡吐きますッ
情報全部吐きますからあ♡♡」

あーダメダメ♪
本当はまだまだ余裕なんですよ？
これからが本番だから、気合入れて耐えてね♡

「無理ムリムリむりい♡ぎもちいい♡♡
おがじくなるうう♡♡
指揮官んん♡し、しんぢやうつ♡ぢぬう♡
もお無理い♡助け…ッオオオオオオ♡♡♡」



「ハ…♡…♡」
ふうーお疲れえい♪
情報は全部吐かせたし
今日はこんなもんか…♡

明日から本格調教開始♡
俺たちに忠実な雌犬に仕上げて、
大好きな指揮官くんの所に送り返してあげるからね♡

ドク



奥付

- タイトル ネットーラレーン Vol.6
- 発効日 2026年8月16日(コミックマーケット108)
- 発行 へんたいゑむぶれむ
- 著者 OKASIRA
- 印刷 プリンティングイン株式会社
- 連絡先 y_mukurro@yahoo.co.jp

無断転載及び複製、アップロードを禁止します。

